

内野彰ら 2009. 数種多年生水田雑草におけるスルホニルウレア系除草剤および各種除草剤に対する反応. 平成 21 年度関東支部雑草防除研究会・関東雑草研究会合同研究会資料, 46.

渡邊寛明 2014. 雑草イネー発生と被害の現状と課題一. 植調 48(9), 305-312.

山口泰弘 2019. 福井県における直播栽培の面的拡大と課題について. 北陸作物学会報 54, 56-57.

Yamasue, Y. 2001. Strategy of *Echinochloa oryzicola* Vasing. for survival in flooded rice. *Weed Biology and Management* 1(1), 28-36.

山内稔 2011. 鉄コーティング種子を用いた水稲の直播における水管理と病害虫・雑草問題. 植調 45(8), 303-312.

安田英樹 2009. 香川県における雑草防除の現状と問題. 植調 43(6), 269-272.

吉田茂敏 2009. 大分県における水稲の雑草

防除の現状と問題. 植調 43(7), 320-323.

吉田修一ら 2008. 水田雑草のスルホニルウレア系除草剤抵抗性簡易検定キットの開発. 雑草研究 53(3), 143-149.

田畑の草種

蒲・黄蒲・賀麻・香蒲 (ガマ)

(公財)日本植物調節剤研究協会  
兵庫試験地 須藤 健一

ガマ科ガマ属の多年草の抽水植物。日本在来で、全国の池や沼、川のほとりなどの浅い水辺、休耕田などに自生する。時には田んぼにも入り込む。直立し背丈は 1.5m から 2m, 水中の泥の中に地下茎を伸ばす。花穂はフランクフルトソーセージの先に棒を突き刺したような形ですぐにわかる。

1905 年の文部省唱歌に「だいこくさま」という歌がある。その 3 番。

「だいこくさまの いうとおり／きれいな水に 身を洗い／がまのほわたに くるまれば／うさぎはもとの 白うさぎ」

ご存知の「因幡の白兔」のお話を唱歌にしたものであるが、ここに出てくる「がまのほわた」の「がま」が「蒲・ガマ」である。お話しそのものは古事記上巻の大國主神の中に稲羽の素戔しろうさぎの挿話として出てくる。ところが唱歌では「がまのほわた」にくるまると歌っているが、古事記の中でウサギがくるまるのは敷き散らしたガマの穂の花粉「蒲黄」であった。蒲黄にはフラボノイド配糖体が含まれ火傷や外傷に効果ありとされ、古

事記が編纂された 712 年にはすでに「蒲黄」が薬用利用できることが知られていたことになる。

フランクフルトソーセージの部分が雌花。花が終わると雌花は「蒲の穂」と呼ばれる。この「蒲の穂」はちょっとした刺激で「爆発」する。色よく熟れた蒲の穂を指先でぎゅっと挟むと、モコモコモコ・ボワワワッ・・・と穂が爆発し綿が飛び出してくる。この綿はタンポポなどと同じ種子を付けた綿毛であるが、その爆発する様は自然が作り出した驚きのマジック。これが「だいこくさま」で歌われた「がまのほわた」である。

ところで、「蒲」も「蒲の穂」も「蒲の穂絮ほわた」も万葉集には詠われていない。古事記に記されているくらい古くから知られていた草であるが、「蒲」を詠った歌は近代まで見いだせなかった。

北原白秋に「蒲の穂」を詠った歌があった。

蒲の穂にひとひら白き冬の蝶 ふと舞ひあがる夕空の晴